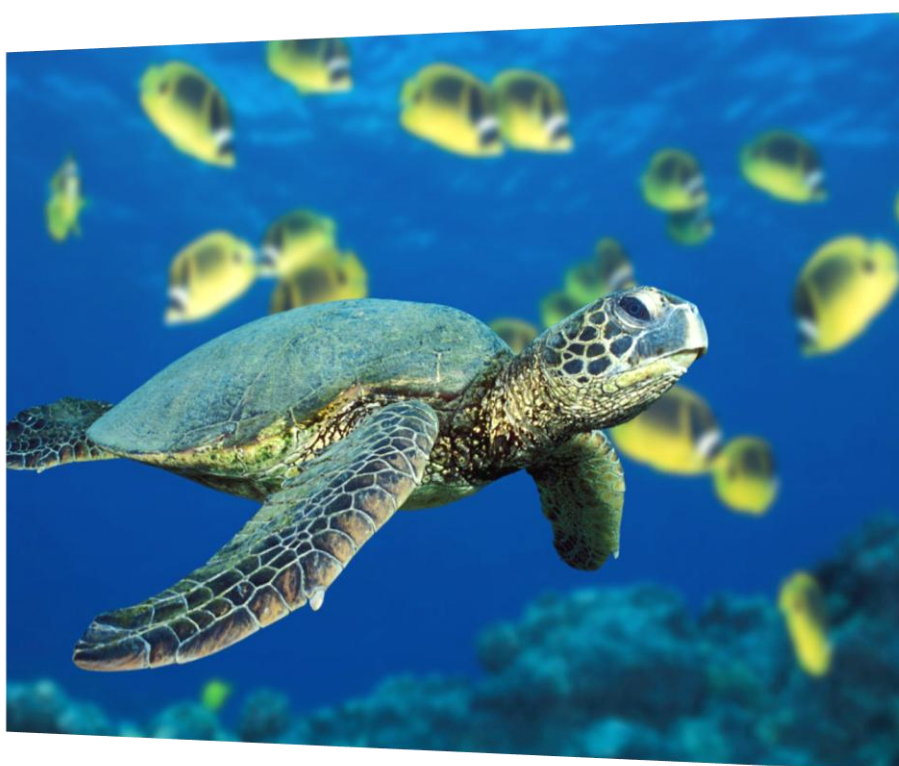


(ED-001)

エコアクション21

環境活動レポート



第1版（平成20年8月～平成20年12月）
平成21年1月20日作成

株式会社平野製作所

住所 東京都立川市錦町6-14-9

Tel 042-524-0338

Fax 042-528-1881

目次

1 : 会社の概要	P 1、 P 2
2 : 実施体制	P 1
3 : 環境方針	P 3
4 : 環境負荷の状況	P 4
5 : 環境目標とその実績	P 4
6 : 取組み結果及び評価と今後の課題	P 5
7 : 活動全体について	P 6
8 : 環境関連法規への対応	P 7
9 : 代表者の評価と見直し	P 8

1：会社概要

会社名	株式会社平野製作所
所在地	〒190-0022 東京都立川市錦町6-14-9
代表者	平野 実
創業	昭和32年5月
資本金	1000万
事業内容	プラスチック用金型製作、プラスチック射出成形加工 コンプレッション成形加工

事業規模

売上高	28,100万円 (平成20年度)
従業員数	20名
本社・工場	
土地面積	590m ²
建物面積	金型工場 198m ² 成形工場 155m ² 事務所、会議室、設計室 245m ²

2：環境推進管理体制

環境管理代表者	代表取締役	平野 実
環境管理責任者	取締役工場長	浅倉 亮
環境管理担当者	各部署担当者	
環境管理事務局	安居 雅夫	

変革

昭和32年	2月	東京都品川区小山3-110番地に金型工場創業
昭和33年	5月	資本金70万円にて会社設立
昭和38年	2月	東京都立川市錦町6-14-9に立川工場金型部新築
昭和39年	2月	立川工場に成形加工部設立
昭和41年	8月	立川工場金型部増築
昭和45年	8月	立川工場成形部増築及び寮新築
昭和50年	11月	資本金350万円となる。立川工場成形部増設。
昭和60年	11月	立川工場金型部事務所増改築
昭和63年	11月	資本金700万円となる
平成5年	5月	資本金1000万円となる
平成7年	4月	本社工場増改築
平成17年	3月	工場隣接地198m ² 取得
平成19年	2月	設立50周年記念
平成19年	10月	本社工場増改築
平成21年	1月	現在に至る

主な設備

マシニングセンタ	V55, V33	牧野フライス製作所
NCフライス盤	KGⅡNCC-85型	牧野フライス製作所
	CM-3ST	ワシノエンジニアリング
NC放電加工機	A-65-R	ソディック
平面研削盤	GS-BMⅡ	黒田精工
ワイヤーカット	AQ325L	ソディック
CAD・CAN	UNI GRAPHICS	牧野フライス製作所
	／EYE (三次元)	
	FFCAN	牧野フライス製作所
	CADMEISTER	日本ユニシス
射出成形機	Si-50	東洋機械金属
	Si-100	東洋機械金属
	TM-130H	東洋機械金属
	TM-180H	東洋機械金属
	TM-220H	東洋機械金属
油圧成形機	300トン (1サイクル自動)	九七鉄工所

3： 環境方針

株式会社平野製作所は、一人ひとりから出来る行動、活動を起点に、この地球を次世代からの大切な預かり物として、無事に返却することを念頭に地球環境、地域環境を考えた事業活動を推進し次に示す環境方針を定める。

- ① 事業活動において、省資源、省エネルギー、資源循環に努め環境負荷を軽減するために次の事項を重点的に推進します。
 - * 二酸化炭素排出量削減
 - * 産業廃棄物の削減、リサイクルの推進
 - * グリーン調達の推進
- ② 環境訓練、教育訓練の実施によりすべての従業員に周知徹底します。
- ③ 環境活動レポートを作成し公表します。
- ④ 事業活動にかかわる環境関連法規及び、当社が同意するその他の要求事項を順守します。

平成20年8月20日
株式会社平野製作所
代表取締役 平野 実

4：環境負荷の状況

環境負荷項目	単位	2007年実績	2008年実績
電力	kwh	329923	365876
ガソリン	L	2809	3057
軽油	L	1056	1117
CO2総排出量	kg-co ²	133992	148621
廃棄物総排出量	トン	16.8	12.95
総排水量	m ³	361	327

5：環境目標とその実績

環境目標を設定するにあたり、事業活動における環境負荷は何に起因するかを考え目標対象となりうる電力、ガス、水道、産業資材等2007年度の実績を調査した。地球温暖化の要因とされる二酸化炭素排出量の削減にむけて、電力、ガス、化石燃料の2007年度の使用実績を調査し、2008年度の使用目標の基礎データとした。多品種少量生産が主の当社にとって、産業廃棄物排出量削減がコストパフォーマンス、生産効率化にかかせない重要なファクターの一つである。産業廃棄物排出量削減にむけ、2007年度の廃棄物排出量実績を調査し2008年度の排出量目標の基礎データとした。現在使用している合成樹脂の特定化学物質含有調査を実施した。併せてMSDSを関係部署に配布した。10月より3カ月間の取組みではあるが、短期目標の設定、中長期目標をしっかりと見定めるために実績を分析し記録にとどめ短期、中長期目標を定めた。

2007年度実績を踏まえて2008年度（10～12月）から2009年度目標を下記の通りとします。

項目	単位	2007年度	2008年度	2008年度	2008年度	2009年度
		実績	計画（10～12月）	実績（10～12月）	実績	計画
電力	kwh	329923	82070	84105	365876	362210
ガス	m ³	120	30	30	144	143
ガソリン	L	2809	700	770	3057	3040
軽油	L	1056	264	270	1117	1110
CO2	kg-co ₂	133992	33330	34351	148621	147870
総廃棄物	トン	16.8	4.1	3.5	12.95	12.8
総排水量	m ³	361	90	86	338	336

6：取組み結果及び評価と今後の課題

2008年8月に社長より環境方針が明示され、10月より3カ月間、環境活動を実施してまいりました。まず部署毎での成果をあげるよりも、実態を把握することとし全体での成果をあげるべく進めてまいりました。結果として3カ月間、計画通りにはいきませんでした。

二酸化炭素排出量について、電力使用量、ガソリン、軽油、とも昨年実績より増加した。評価としては、【×】

廃棄物排出量について、廃棄物の徹底分別、不良品の撲滅運動による効果等により計画を達成できた。評価としては、【○】

総排水量としては、節水の効果があったのか、計画を達成できた。

評価としては、【○】

今後の課題としては、部署毎に分担を決めて、2009年度の目標値を達成するために何をすべきか具体的に活動計画内容を下記の通り決定しました。

環境活動計画の内容

活動計画の中心テーマとなる二酸化炭素排出量削減、廃棄物排出量削減、リサイクル推進にむけて省エネ・電力班、廃棄物班、リサイクル班等々班割分担とし、目標値を設定し全員で目標を達成することとした。

1) 省エネ・電力班 目標値 電力使用量2008年度比0.5%削減

* 休み時間の消灯

* 不使用設備の電源オフ

* 空調設備の省エネ設定 (暖房=<22℃、冷房=>27℃)

* 空調設備のフィルターの定期清掃

* 社内設備 (配線含む) の点検、補修、保全、清掃の励行

* 省エネ蛍光灯の導入 (取り換え時に随時導入)

* パソコン等省エネ設定

* 工程内作業で省エネ化の方法を構築、生産設備の昇温時間の適正化

省エネ・ガソリン班 目標値 ガソリン、軽油量削減

* エコドライブ、安全、安定走行の励行、急発進、急停車をしない

* 停車中のアイドリングストップ、信号待ちのニュートラル停車

* タイヤの空気圧点検を実施、ガソリン満タンでの走行をしない

省エネ・水班 目標値 総排水量目標336m³以下

* 節水コマの使用

* 生産設備と配管との水モレの点検・修理

* 節水を促す標語を掲げ水使用を抑制する

- 2) 廃棄物班 目標値 12.8トン以下
- * 廃棄物の徹底分別による削減、PETボトル、空き缶の分別
 - * 不良品の削減、工程の見直し
 - * 金属金具付き不良品は金属金具をとって粉砕し再利用、金属はマテリアル・リサイクルに
 - * 歩留り管理の徹底
 - * 5S運動の徹底
- 3) リサイクル班
- * プラスチック廃材の再利用
 - * 工程内不良品のマテリアル・リサイクル推進の確立
 - * プラスチック再生材利用の用途開発、自社製品の開発
 - * コピー用紙の表裏使用。使用済、使用不可のコピー用紙はシュレダーにかけて緩衝材に使用。
 - * 段ボール箱の通函化
- 4) グリーン調達班
- * 特定化学物質の調査、管理、保管、新アイテムについてはRoHS6物質の含有調査の励行
 - * MSDSの関係部署保有、配布する
 - * グリーンファクトリー化へ、屋上緑化

中長期目標 2014年度目標計画

二酸化炭素排出量	2009年度計画より5%削減目標
	140620kg-co ²
総廃棄物排出量	12.2トン
総排水量	320m ³

7：活動全体について

エコアクション21への取組みをはじめ、3か月を経過した。従業員一人ひとりの環境に対する意識を持つことから出発した。地球温暖化の脅威に慄き、現実感とのギャップの差に怖さを覚え、二酸化炭素排出量削減のもつ意味を知り、一人ひとりに何ができて何をすれば良いかを考える機会を得た3か月であった。“ものづくり企業”にとってリデュース、リユース、リサイクルの時代の意義を考え、産業廃棄物の処理方法、処分場の視察等々。2009年度にむけた入り口のスタート地点にたてた意義ある3か月であった。

8：環境関連法規への違反・訴訟の有無

1： 当社に該当する主な環境関連法規

環境関連法規	要求届出事項	評価
環境基本法	環境保全の基本理念の順守義務	○
騒音規制法	特定施設の届出順守義務 特定施設変更時の届出	○
振動規制法	特定施設の届出順守義務 特定施設変更時の届出	○
悪臭防止法	規制基準の順守義務	○
下水道法	規制基準の順守義務	○
産業廃棄物法	廃棄物保管場所に掲示板設置 マニフェストの運用、保管、報告	○
労働安全衛生法	労働者の安全と健康の確保、快適職場環境の形成	○
有機溶剤中毒予防規則	有機溶剤による中毒防止	○
消防法	消防施設確認	○

2： 環境関連法規への違反はありません。尚、市当局より近隣（1軒）

より悪臭の苦情がありました。弊社で消防設備点検時に排煙扉の開閉テストを実施した際に臭気もれてしまった為。今後十分注意をして消防設備点検を実施したいと考えています。

9：代表者の評価と見直し

環境活動を旗揚げして3ヶ月、本期間は数値化による自社の実態把握を重点に活動し、環境負荷の現状が把握できた事は十分な結果と考えられます。また、社員一人一人の環境に対する意識の向上により、自発的な活動が行なわれている事も評価できます。

二酸化炭素排出量の増加が昨年実績より増加した。これは、工場増築による設備点数が増えた事や、加工機械を増設した為と考えられる。

具体的な環境目標数値、達成手段が明確になった事により、部署毎による環境の維持改善に向け、成果となって表れる活動を期待できると判断します。

